

連合 2018 春季生活闘争中央討論集会 主催者代表挨拶

2017 年 11 月 1 日
日本労働組合総連合会
会長 神津 里季生

〈はじめに〉

連合 2018 春季生活闘争・中央討論集会に構成組織、地方連合会、関連団体からご参集のみなさん、大変お疲れさまです。また多くのメディアの皆さまにもご参加いただいていることに、感謝申し上げます。

本日はこの後、2 名の方から基調講演をいただきます。大変お忙しい中、貴重なお時間を割いてご講演いただく日本経済研究センター特任研究員の河越正明さんかわごえまさあき、そしてここ数年連続でお願いしております、連合総研の中城吉郎所長なかじょうよしろうに、まずもって御礼申し上げます。

さて連合は先月 4 日、5 日に第 15 回定期大会を開催し、2018・2019 年度の運動方針を確認いただきました。冒頭の挨拶の中で春季生活闘争については、この数年、「底上げ春闘」の旗を掲げて奮闘いただいた結果、目に見える形で新しい傾向を生み出していただいたことに感謝するとともに、人口動態や技術革新、人々の意識の変化という大きな波のなかで、春季生活闘争の位置付けや闘い方、めざすところ、光を当てるべきところについて不断の見直しが必要だとも申し上げました。

2018 春季生活闘争については、すでに 2017 のまとめでご確認いただいたとおり、月例賃金にこだわり、すべての労働者の「底上げ・底支え」「格差是正」の取り組みを継続していかなければならない、ということを申し上げたわけですが、この考え方をベースに、「2018 春季生活闘争 基本構想」策定の論議を進め、先月、10 月 19 日に開催した第 2 回中央執行委員会において確認いただき、組織討議に付してきたところであります。

その状況を持ち寄っていただきこのあと討論を進めていくわけではありますが、開会にあたり、基本的な考え方について所見を申し上げたいと思います。

〈2018 春季闘争の意味合い〉

連合は、2014 春季生活闘争から「底上げ・底支え」「格差是正」の旗をかかげ、特に 2016 からは「大手追従・大手準拠などの構造の転換」など、労使関係の歯車を回すことに重点を置いて取り組んできました。その結果、直近の 2017 年春季生活闘争では、足下の物価上昇がない中で賃上げを実現し、加えて中小が大手を上回り、また非正規の処遇改善が正規のそれを上回るなど、60 年を超す「春闘」の歴史上でも初めての傾向をさらに強める大きな成果を上げていただきました。2018 春季生活闘争においては、これを組織の中でさらに深め、また社会に広げていかなければなりません。

2018 春季生活闘争の特徴となるであろう点をいくつか、申し上げたいと思います。

まず、「賃上げ」の流れを継続し、強化していかなければならないという点です。この間の各組合のご奮闘により、マクロでみれば賃金水準は改善の傾向にあり、GDP も伸びています。けれどもこれが家計消費につながっていないのです。われわれがめざす「日本経済の自律的成長」は、まず労働者の可処分所得を増やし、それが個人

消費増をもたらし、企業活動の活性化につながる、というサイクルです。その入口には立てているのに、そこから先がまだつながっていません。

ここをつなげていくためには、ひとつには、毎年、1年間がんばった分に応じて賃金は上がるんだ、という「常識」を、日本全体に、取り戻さなければなりません。漠然とした不安に備えて貯蓄に回さなくても、安心して将来設計ができるようにすることが重要です。同時に、社会保障や税のあり方など、政策や制度の面でも「安心」を作りだしていくことも重要な課題です。

「賃上げ」を検討する際に、どこに光を当てるのか、是正すべき格差は何なのか、は、産業・企業・職場それぞれが置かれた状況によって異なります。組合としてまず現状をきちんと把握し、その実態に応じて要求を検討し、説得力を持って求めていくことが必要です。

併せて、賃金引き上げの流れを広く社会全体に、隅々にまで届けていくためにも、「サプライチェーン全体で生み出した付加価値」をその生み出したところに「適正に分配する」という考え方、その重要性と必要性を、社会に広げていかなければなりません。単組あるいは構成組織が単独で取り組むと言うよりも、産業横断・社会横断の取り組みとして、行政や経営者団体とも連携して進めていくことが肝要です。

次に、職場の労使の取り組みによって、「働き方」を見直す必要があることです。連合はずいぶん前から、少子高齢化による労働力不足といった人口動態の変化や、IT化さらにはAIの導入といった技術革新、生活や「働くこと」に対する人々の意識の変化に対応して「働き方」を見直さなければならぬと主張し続けて来ました。ここ数年の社会状況のなかで、いわゆる「働き方改革」が大きなテーマとして浮上してきたこと自体は非常に重要なことです。

一方で「働き方改革実行計画」を法律に落とし込んだ関連法案の成立と施行の先行きは、政治日程との関係で不透明になってしまっていますが、法律の成立や施行がどうなるだろうとも、組合は職場の環境整備に先行して取り組んでいく必要があります。「仏作って魂入れず」という言葉がありますが「魂」をはぐくむのは他ならぬ私たちが担っている労使関係に他なりません。

現在の「働き方」に改善を加えていくことは、職場を熟知する労使にしかできません。そして、職場に建設的な労使関係があってはじめて、企業と従業員、双方にとって納得できる「働き方」の見直しが可能である、ということを、その内容とともに機能の重要性も含めて広く世に伝えていかなければなりません。

(「クラシノソコアゲ応援団！ RENGOCAMPAIN」第3弾との関わり)

この11月より、「クラシノソコアゲ応援団！ RENGOCAMPAIN」第3弾の取り組みを開始しますが、これはまさに私たち組織労働者としての実行力を世に示す機会でもあるわけです。

来年の通常国会終了時までを取り組み期間と位置づけているわけですが、当面、今年の年末までの期間、すでに運動展開している「36協定の周知・適正な締結を中心とした長時間労働是正」に取り組んでいかなければなりません。

長時間労働是正の潮流を、途切らせるようなことがあってはなりません。そのためには、まさに、ここにお集りの皆さんによる取り組みが必要です。連合・構成組織・地方連合会それぞれにおいて、ぜひ、強力に取り組みを進めていただくよう、この場を借りてお願いいたします。

(組織拡大との関わり)

そしてその上に立って、組織拡大の取り組み強化・意味合いの強化があります。2020年に「1000万連合」を実現するという方針を掲げてから6年が経過しました。

春季生活闘争の意義やキャンペーンの目的とも有機的にからませながら、建設的な労使関係の意義を世にアピールしていくことなしにはこの数字は到底達成されません。

労働組合にとって「数は力」です。しかし、そのことが未組織の職場段階でも認識されなければその「数」の力は現実のものとはなりません。長時間労働是正やその根幹をなす「36協定の周知・適正な締結」はそのことに世の中全体が目を向ける最も基礎的な営みであることを強調しておきたいと思います。

(真の底上げは連合がつくりだす)

さて直近の経済財政諮問会議においても賃上げの重要性があらためて強調されているようです。しかし取りざたされている内容に対しては率直に言って疑問を強めざるを得ません。

いまだにトリクルダウンの発想から抜け出ていないのではないのでしょうか。賃上げ税制含めてお上が音頭をとれば世の中が素直に3%の賃上げに向かうということを指向しているようですが、そのような発想だけでは2014、2015のときと同じような格差拡大を繰り返すのではないのでしょうか。

数字については私たちも2+2の4%というものを掲げています。もちろん数字も大事ですが、肝腎なのはなかみです。底上げの考え方については今ほどう述べて参りましたので繰り返しません。働き方改革も含めて、中小・地場の取り組みが決定的に重要です。取引慣行の是正、特に一部の業界に取引慣行の矛盾による負担が偏っていることにも、もっとメスが入れられなければなりません。

働き方や賃金制度は産業・企業、職場によって様々です。職場の実態をきちんと見極め、改善すべき点を見いだす。組合員はもちろん、職場で働くすべての人の状況を把握し分析し、最善の要求を組み立てる。この2018春季生活闘争において、真の底上げを実現できるのは皆さん方であり、私たち連合です。そのことを本集会を通じて確認して参りたいと思います。

〈この機会に〉

本題とは異なりますが、足もとの状況との関わりで以下二点について触れておきたいと思います。

○ 相次ぐ企業の不祥事

まず相次ぐ企業の不祥事についてです。特に日本の屋台骨を支えてきたはずのものづくり産業大手において不祥事が連続していることについては誠に遺憾であり憂慮に堪えません。これらの問題は基本的には経営の責任が問われる性格のものであることは事実ですが、私たちの労働運動において、経営対策が重要なテーマの一つである以上、職場単位での労使関係機能の強化や、企業風土改善に向けた不断の努力なども、あらためて全ての組織が俎上にあげて点検されるよう求めておきたいと思います。連合としても関係組織と連携しつつ、健全な産業・職場づくりを進めて参りたいと思います。

○ 政治状況

次に政治状況に関してです。10 日まえ、10 月 22 日に投開票が行われた第 48 回衆議院選挙については、すでに事務局長談話を出しておりますが、ひと言で言えば、極めて残念な結果と言わざるを得ません。総括議論をあらためてしっかりと行っていかなければなりません。

他方、この間の混沌の状況のなかにあっても、構成組織・単組・地方連合会・地域協議会が全力を挙げて取り組んでいただいた結果、推薦した候補者 99 名の方々が議席を獲得できたことは、これからの連合がめざす政策・制度の実現に向けて、大きな力の発揮につながるものであります。全ての皆さまのご奮闘に心から敬意を表するものであります。

しかし非常識な解散に端を発した混沌は、いまだ現在進行形と言わざるを得ません。そのようななか昨日の民進党両院議員総会では大塚耕平新代表が選出されました。次の総選挙で立憲民主党・希望の党・民進党中心に政権交代を目指すとし、「まずは統一地方選、参議院選挙に向けて党の再生、党勢の拡大に粉骨砕身取り組みたい」との決意表明がなされたところです。

私たちが連携を重ねてきている連合参議院議員の皆さん方には少なくとも、ひとつのかたまりの姿を大事にしていきたいと思います。衆議院では離合集散、分裂・分立が一強政治の専横を許してしまいました。比例全体の得票数では野党が与党を上回りながら結果に全く結びつかなかった、この轍を踏むことは許されません。目的を共有し得る政治勢力が一致団結して国民の負託を受けとめることがなくてはなりません。これまでのバラバラ感を払拭し、今後に向けた基盤の姿を明確にされることを強く求めておきたいと思います。

〈おわりに〉

以上、所見を述べて参りました。これらは連合の活動として、すべて一本につながっています。われわれ労働組合の活動から、社会的なうねりを作りだしていく、日本が抱える様々な課題の解決に向けて、労働組合こそが先頭に立つという覚悟で、尽力していかなければなりません。2018 春季生活闘争は、そのなかの大変大きな取り組みです。今日明日の 2 日間、皆さんの活発な議論に期待を申し上げて、冒頭の挨拶いたします。ともに頑張りましょう！

以上